

平成 26 年度
横須賀美術館 評価報告書
（二次評価まとめ）

平成 27 年（2015 年）7 月
横須賀美術館運営評価委員会

I 美術を通じた交流を促進する 【集客・交流推進】

① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。 〔広報〕

		(25年度)	1次評価	2次評価
達成目標	・年間観覧者数102,000人	B	S	
小林委員長	S			
菊池委員	S	・不測の状況で企画展を独自で開催し、昨年実績を12,000人超えたことはS評価に値する。(来館者も22,000人昨年比増)		
安藤委員	S	・来館されるお客様に、美術品・美術展そのもの以上に、横須賀・観音崎のすばらしいロケーションを認知していただくことが重要である。さらに数を伸ばせる展示・広報を期待しております。		
柏木委員	A	・生誕110周年 海老原喜之助展が目標に達成したことは、高く評価できると思います。		
黒岩委員	S	・達成率を大幅に上回った点は大いに評価できる。今後も夏休み期間中に開催する企画展の内容の充実を期待したい。		
榊原委員	S	・これまでの全体の観覧者数、来館者数を上回る目標に達しているためSとした。 ・小林孝亘展は達成率を下けているが、美術館の役割を果たしているため、この展覧会も含めてSとしたい。 ・『海辺のミュージアムでみる日本画展』は横須賀美術館の所蔵展のなかで企画されたことで、横須賀にもいい作品があるのだと評判を上げたようだ。		
庄司委員	A	・年代別来館者数で20代が少ないのは寂しいです。		

実施目標	・広報、パブリシティ活動を通じて、市内外の広い層に美術館の魅力をアピールする。	(25年度)	1次評価	2次評価
		A	A	
小林委員長	A			
菊池委員	S	・観覧者数、来館者数ともに大幅に増加した要因は、効果的なパブリシティの成果があつてこそだと思うのでS。		
安藤委員	A			
柏木委員	A	・増加傾向を維持している点を評価します。		
黒岩委員	A	・様々な情報媒体を活用して情報発信を行うことが出来た。		
榊原委員	S	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞、雑誌、Web、フリーペーパーではこれまでより大幅に目標を上回っている。 ・フォロワー、ツイートも延びているのでSとした。 ・商業撮影の受け入れ件数が延び、使用料も大幅アップなのは美術館のこれまでの努力の現われと思う。 その他、タウン紙、駅貼り、チラシの配架も延びているのは喜ばしいことなのでSとした。 		
庄司委員	A	芸術系大学のみではなく一般の大学にも企画展についてアピールしてはいかがでしょうか。大学生は時間の余裕が一番有るように思われますので。		

②市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。 〔市民協働〕

達成目標	・市民ボランティア協働事業への参加者数のべ2,400人 (事業ごとに加算、登録者・一般参加者を総合して)	(25年度)	1次評価	2次評価
		S	B	
小林委員長	B			
菊池委員	A	・ボランティアの機能性、来館者への安全の配慮など総合的な判断に基づく数字であれば減もやむを得ない。ただし、必要数が不足し来館者の不満につながる状況があったとすればB。		
安藤委員	B			
柏木委員	B	・一次評価における原因の分析は適切であると思います。目標にほど遠いという実績値ではありません。		
黒岩委員	B	<ul style="list-style-type: none"> ・目標設定段階で想定したイベント内容に、その後変更が生じた場合は、目標値の修正を行うべきではないだろうか。 ・目標値設定段階で、イベント内容や予想される参加者数の見込等も丁寧に設定すべきである。 ・今後、年3回のイベント回数増やすことで、安全面に配慮して参加者数の増加を図ることは可能なのか、検討が必要。 		
榊原委員	B	・ボランティア活動の選択が出来たことはボランティアにとっていいことだと思う。		
庄司委員	B			

実施目標	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる。 ・市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する。 	(25年度)	1次評価	2次評価
		A	A	
小林委員長	A			
菊池委員	A	・ボランティアへの配慮も感じられ、共に創ると言う動きが感じられる。今後は、ユーザーボイスの分析もあれば尚可。		
安藤委員	A			
柏木委員	S	・活動実態とボランティア参加者の要望を適切に分析し、優れた成果をあげていると思います。		
黒岩委員	A	・ボランティア活動の目的を明確化し、細分化したことで、ボランティアの意欲の向上と参加者数の増加が図れた。		
榊原委員	A	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトボランティアが楽しんで活動できているのは素晴らしい。 ・サポートボランティアも自主研修などを入れ、取り組み方に真剣さが出てきているように思う。 ・もっと多くの市民を巻き込んでいけるといいのだが……。やはり、交通の利便の悪さと交通費の支給が充分ではないということで広がっていかないこともあるように思う。ボランティアの中にはせめて交通費はでないかと思う者もいる。 		
庄司委員	A			

II 美術に対する理解と親しみを深める

【社会教育】

③調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。

〔展覧会・教育普及〕

達成目標	・企画展の満足度(補正值)80%以上	(25年度)	1次評価	2次評価
		B	A	
小林委員長	A			
菊池委員	A			
安藤委員	A			
柏木委員	S	・来館者総数の1%程度のアンケートに基づく数値結果ではありますが、出品作品に対する満足度はすべて高い数値を示しており、「利用者の知的欲求」は高い水準で満たされていると評価します。		
黒岩委員	A	・作品に対する満足度が高い点は、企画展の質の高さを感じる。一方、解説と順路については改善の余地がある。		
榊原委員	A	・企画展の満足度は集客で評価するとなると、キラキラ・ざわざわとか、子ども受けのいいのに頼るのもあろうが、夏休みに子どもの感性を磨く場ともなるので、これからも心にやさしくて、魅力を感じさせる企画になりよであって欲しい。 ・市民の感性を磨く企画も浸透してきているのではないか。たとえば海老原喜之助展はあまり周知されていない画家だったが、初めての出会いをした人にも評価は高かった。「知らなかったけど、大変興味を持てた」と。 逆に、小林孝巨展はこれからも画家の知名度を上げて浸透していけるようであればいいと思う。		
庄司委員	A			

実施目標		(25年度)	1次評価	2次評価
		A	A	
小林委員長	A			
菊池委員	A			
安藤委員	A			
柏木委員	S	・展覧会の内容もバランスが取れており、関連事業も充実していると思います。		
黒岩委員	A	・企画展の内容のバランスと質の高さ、講演会やワークショップの充実が図られている。		
榊原委員	A	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年のことながら児童造形作品展は評価をあげているように思う。 ・谷内六郎に関してはもっと知名度を上げてほしいと思うので、年齢層の若い人々にも「かわいい！」ではないが、アピールしていけるといい。 ・所蔵展のプチ企画は興味深いものが多いので、もっと浸透していけると思う。横須賀ゆかりの、川村吾蔵、吉田多最はもっと市民の人たちに見てもらいたかった。 		
庄司委員	A			

④学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。

[若年層への教育普及]

達成目標		(25年度)	1次評価	2次評価
		S	A	
達成目標	・中学生以下の年間観覧者数22,000人			
小林委員長	S	・中学生は若干減少したが、中学生以下の年間観覧者22,000人を上回る2万6千人の数字を評価したい。		
菊池委員	S			
安藤委員	A			
柏木委員	S	・数値上の達成もさることながら、造形活動支援も鑑賞教育もメニューが豊富で、特に「アートカード」の普及は高く評価できます。		
黒岩委員	S	・目標値を上回り、幼児の観覧者数が著しく伸びると共に、開館以来最も多くの観覧者数を記録したことは大いに評価できる。		
榊原委員	A	・横須賀市の小学六年生は全員、美術館観賞会に来るので恵まれている。こういうことをもっとアピールしていければよい。 ・職業体験で来ている子どもたちの目が輝いていたので、かなりの成果を上げているのではないだろうか。		
庄司委員	A			

実施目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校における造形教育の発表の場として、児童生徒造形作品展を実施する。 ・学校と緊密に連携し、子どもたちにとって親しみやすい鑑賞の場をつくる。 ・子どもたちとのコミュニケーションを通じて、美術の意味や価値、美術館の役割などに気づき、考え、楽しみながら学ぶ機会を提供する。 ・鑑賞と表現の両方を結びつけたプログラムを実施する。 ・小学校鑑賞会を充実させるため学校との連携を強化する。鑑賞会と連動した教材の共同開発と活用、出前授業の実施などを教員と協力しながら実施する。 	(25年度)	1次評価	2次評価
				S
小林委員長	A			
菊池委員	S	・アートカード活用の効果が出ていると思う。		
安藤委員	A			
柏木委員	S			
黒岩委員	S	・児童生徒造形作品展の充実、小学校美術鑑賞会と連動したアートカードの活用等、学校と美術館の連携が十分図れた。 ・発達段階を考慮した様々なワークショップが企画され、子どもが美術に親しむ機会を生み出している点は大いに評価できる。		
榊原委員	A	・毎年の造形展が定着してきて、生徒の両親、親戚、知り合いが美術館に訪れるいい機会になっている。 ・学校側も造形展を意識して生徒たちに作品を創作を指導しているのだろうが、どの学校も平均して、豊かな色彩、造形の面白さがでていてユニークな作品作りになっているが、それもマンネリにならないように、子どもの自主性をもっと出るといいと思う。 ボランティアたちも子どもたちとの対話観賞を希望するものもいるので活用できないだろうか。		
庄司委員	A			

⑤所蔵作品を充実させ、適切に管理する。

[収集管理]

達成目標	・環境調査の実施(年2回) ・美術品評価委員会の開催(年1回)	(25年度)	1次評価	2次評価
		-	A	
小林委員長	A			
菊池委員	F			
安藤委員	A			
柏木委員	A	・所蔵作品管理、作品収集に関する美術館としての取組みは過不足なく、Aと評価できると思います。		
黒岩委員	A	・環境調査の実施と美術館評価委員会の開催が達成目標である以上、達成されたと評価できる。		
榊原委員	F	・作品の保存等のご苦勞は多いように思える。評価はできない。		
庄司委員	B			

実施目標		(25年度)	1次評価	2次評価
			C	C
小林委員長	C			
菊池委員	F			
安藤委員	C			
柏木委員	C	<ul style="list-style-type: none"> ・作品購入費の財源確保については、まずは、美術館の設置者で所蔵品の所有者である横須賀市の政策判断になると思いますので、2次評価はFとすべき側面もあると考えます。 ・美術品の購入が途絶えると、優れた美術品の情報が集まらなくなり、将来的な美術館活動に影響する懸念が強くなります。 ・これらを総合的に評価してCとしました。 		
黒岩委員	B	<ul style="list-style-type: none"> ・作品購入費が配当されない以上、寄贈作品を価値づけ、コレクションの充実を図ることを評価すべきである。 		
榊原委員	C	<ul style="list-style-type: none"> ・予算がないということで積極的に収集が出来ないのは残念。 ・所蔵品の価値をひろく認められるようになるには、ストーリーできてその内容に共感できるようなものがあればいつも思う。 ・たとえば矢崎千代治物語とか、今年寄贈された木村利三郎物語などがあれば面白いように思うのだが。 		
庄司委員	B			

Ⅲ訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する

【運営・管理】

⑥利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。

[メンテナンス・来館者サービス]

達成目標		(25年度)	1次評価	2次評価
		B	B	
達成目標	・館内アメニティ満足度91%以上 ・スタッフ対応の満足度80%以上			
小林委員長	A	・数値的にみて目標達成と評価してもよいのではないのか。		
菊池委員	B	・傾向的に変化がない項目であるが、経年的にどの項目に不備があるのか分析してみてもは。調査項目の見直しを含めて、来館者サイドの評価が客観的にわかるように。		
安藤委員	B			
柏木委員	A	・スタッフ対応の満足度が数値目標をうわまわった点を高く評価します。		
黒岩委員	B	・目標値を高く設定しているが、スタッフ対応の満足度が向上している点は、評価できる。		
榊原委員	A	・気持ちのいい対応に評判がいいと思う。 ・何度も言うので恐縮だが、館内にお茶の飲めるようなスペースがあればいいということ、芝生に椅子やテーブルがあれば尚いい。		
庄司委員	A			

実施目標	<ul style="list-style-type: none"> ・建築のイメージを損なわないよう、じゅうぶんなメンテナンス、館内清掃を行う。 ・受託事業者と協力して、ホスピタリティのある来館者サービスを実践する。 ・受託事業者と協力して、付帯施設(レストランおよびミュージアムショップ)を来館者ニーズに応じて運営する。 	(25年度)	1次評価	2次評価
				A
小林委員長	A			
菊池委員	A			
安藤委員	A			
柏木委員	A			
黒岩委員	A	・美術館、ミュージアムショップ、レストランが連携し、サービスの向上が図られている。		
榊原委員	A	・観覧者の動線の中ではメンテナンスがよいし、清潔観も感じられる。		
庄司委員	A			

⑦すべての人にとって利用しやすい環境を整える。		[バリアフリー]		
達成目標	・福祉関連事業への参加者数のべ340人	(25年度)	1次評価	2次評価
		S	S	
小林委員長	S			
菊池委員	S			
安藤委員	S			
柏木委員	S			
黒岩委員	S	・年齢や障害の有無に関わらずに美術に親しめる場が設けられ、達成目標を上回ったことは大いに評価できる。		
榊原委員	S	・学芸員のご努力が多くの参加者に繋がっていると思うが、横須賀市民の人数的な割合はどうなのでしょうか。		
庄司委員	S			

実施目標	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢や障害の有無などにかかわらず、美術に親んでもらう（環境づくりの）ための各種事業を行う。 ・必要に応じて、対話鑑賞等の人的サポートを実践する。 	(25年度)	1次評価	2次評価
				A
小林委員長	A			
菊池委員	S			
安藤委員	A			
柏木委員	A	<ul style="list-style-type: none"> ・増加傾向にある「みんなのアトリエ」については、参加者が急増した際の対策を、この段階で考えておく必要があると思います。 		
黒岩委員	A	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に行われている「みんなのアトリエ」の内容の充実が図られている。 ・今年度実施した表現と鑑賞の一体化した「パフォーマンス」のように、幼児から楽しめる企画を今後も期待する。 		
榊原委員	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ここに携わる人の人数が足りないのではないかと思えるほどなので、上手くボランティアを育てて役に立つようにはならないだろうか。 		
庄司委員	A			

⑧事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する。 [経営的視点]

達成目標	・電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数、公用車走行距離を前年度以下とする	(25年度)	1次評価	2次評価
		B	C	
小林委員長	B	・この評価項目については検討の余地あり。館内利用者の増加と経費の問題、それに対する公用車のような主体的な経費削減可能事項、それらの点の評価をどうするのかと言った問題。		
菊池委員	B	・基本的には、数値目標は目標として捉え、状況に応じた分析と来館者が不便を感じない環境を全員が意識していることが肝要。		
安藤委員	C			
柏木委員	B	・目標値をわずかに達成できなかった項目については適切に分析されており、かつ目標にほど遠いという数値ではありません。 ・適切な保存環境を必要とする美術品を収蔵し、来館者を心地よく迎えることが不可欠である施設の特性に鑑み、他律的要因に左右される電力消費量の削減を、一律に達成目標とすることは是非が検討されるべきかと思えます。		
黒岩委員	B	・常に前年度実績以下を目標とすることには無理がある。美術館を運営する上で、サービスを低下させない適切な目標値設定を行うべきである。		
榊原委員	B	・年による気候の変化や企画、イベントの種類、それは年度比較はできない。 ・美術館自身がよく努力されているのだから、効率的だと思えばそれでいいと思う。		
庄司委員	B	・消費税等上がっている中、運営・管理大変な事と思われます。		

		(25年度)	1次評価	2次評価
		実施目標	・職員全てが費用対効果を常に意識し、事業に取り組む。	A
小林委員長	A	・随所に費用効果に対する意識や取り組みがみられる。		
菊池委員	A	・実施目標を検討する中から、美術館として本項目にふさわしい達成目標を設定するヒントが隠されているかもしれません。		
安藤委員	B			
柏木委員	B			
黒岩委員	B	・サービスの向上と経費削減という難題に、職員は前向きに取り組んでいると判断する。		
榊原委員	A	<ul style="list-style-type: none"> ・心に余裕のある状態で費用効果を意識するあまり窮屈になり過ぎるのではないかと案じる。 ・少ない予算の中でも心にゆとりを持ってほしい。 		
庄司委員	B			